

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 8 期第 8 回相模原市緑区区民会議		
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話 0 4 2 - 7 7 5 - 8 8 0 2 (直通)		
開催日時		令和 7 年 1 2 月 2 4 日 (水) 午後 2 時～ 4 時 5 0 分		
開催場所		緑区合同庁舎 4 階 集団指導室		
出席者	委 員	1 4 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	9 人 (区長、他 6 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 緑区基本計画の進捗状況について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（◎は会長の発言 ○は委員の発言 ●は事務局の発言）

1 開会

緑区役所区政策課長の進行により、会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議公開の確認、並びに傍聴希望者がいない旨の報告を行った。

2 議題

牧瀬会長の進行により、議事が進められた。

3 緑区基本計画の進捗状況について

事務局から資料に基づき、今回の審議内容である取組目標Ⅴ「『自然と共存し、生かし合う』まちづくり」及び取組目標Ⅵ「『交流し、高め合う』まちづくり」の内容について説明を行ったのち、地域における取組及び課題の抽出ならびに今後の展開について、途中休憩を挟みながら、3班に分かれて意見交換を行った。

取組の方向性Ⅴ

<各班の主な意見>

【A班】発表者：高橋委員

V－1：貴重な自然環境を次世代につなげる【自然・環境】

V－2：担い手の育成・確保で農林業の振興を図る【農林業・鳥獣被害対策】

これまでの地域での取組の成果や現状

○緑区の中でも地域ごとに特性が異なり、課題などを一元的に評価することは難しい。

○各地域においてはボランティアでの活動も実施されているが、行政でないとできないこともある。

意見・課題

○林業の担い手不足などの話もある中で自然災害も発生しており、自然環境の整備が進まないことに対しての具体的な対策にまでは踏み込んでいない印象があり、来季に向けては盛り込めると良い。

○鳥獣被害に関して、農業面積の減少が急速に進んでいることについての対策が必要であるとともに、熊などを発見した時や鳥獣被害に遭遇した際の通報や報告が簡易にできるように対策をしてもらえると良い。

今後の展開

○地域での取組の成果を確認する上で、市民ができる部分と行政でないとできない部分を切り分けて、可視化ができるような具体的な指標が必要である。

○若い方も住みやすい街にするためにはどうしたら良いか、ボランティアや民間

だけでは実現できない部分があるので、行政と協力して行うためにも指標を具体化していきたい。

【B班】発表者：池田委員

V－1：貴重な自然環境を次世代につなげる【自然・環境】

V－2：担い手の育成・確保で農林業の振興を図る【農林業・鳥獣被害対策】

これまでの地域での取組の成果や現状

○藤野地区ではボランティアで環境保全に取り組んでいる団体がある。以前は炭焼きなどで多世代交流の行事もしていたが、現在は担い手不足となっている。

○藤野の佐野川地区では法政大学の学生が参画し、茶畑で茶葉を生産し販売している。

意見・課題

○大学生などが活動しているのは、交通手段が確保されている点や温泉施設が利用できることなどがメリットと感じてもらえているためと考えられる。完全ボランティアでは若い方の地域活動への参画には結びつきにくい。

○若い方や地域に居住している以外の方にも、メリットと感じてもらえる部分を提供して、自然環境保護、保全の活動に参加してもらうことで、関係人口を増やしていくことがどの課題においても重要と考える。

○農業の減少などの対策として、行政がしっかりと情報収集や情報発信するプラットフォームを作成して提供していくことで、農地を貸したい方と借りたい方を結び付けることで耕作を継続させることができると考える。

○自然環境を生かし、守る。これが市にとっては必要と考え、それぞれの地域の状況について知識があり、自然環境の保護保全活動に参加してくれる方を準公務員として消防団の方のような形が採れると良いと考える。

【C班】発表者：佐藤委員

V－1：貴重な自然環境を次世代につなげる【自然・環境】

V－2：担い手の育成・確保で農林業の振興を図る【農林業・鳥獣被害対策】

これまでの地域での取組の成果や現状

○20名ほどのボランティアで、山の紅葉を守る活動をしている団体がある。その他、財産区や森林組合においても森林を守る活動を行っているが、少数での活動で成果が見えにくいところであるが、少しずつでも広がっていけば、必ず、貴重な自然環境を次世代に繋がるものだと考える。

意見・課題

○山林の所有者や企業もある中で自然環境を守る取り組みにおいても、人材不足が課題と考えられる。自然を相手にする中でも、DX化の方策を取り入れて効率化を目指していくことで、自然環境を守り次世代につなげることへの先が見えてくる。

○不法投棄の対策として看板が設置されているが、もう一度見直しを行政にもお願いしたい。

○鳥獣被害や環境状況に関する情報を数値化や具体化して、緑区にお住まいの方へ広く周知することと、これまでの区民会議での良い意見を生かせるような取り組みにつなげることを希望する。現状を具体的に広く周知して、地域での活動に参加する人の増加につなげるようなことを区民会議でもできると良い。

【A班】発表者：高村委員

VI—1：活力あるコミュニティの醸成に取り組む【地域コミュニティ】

VI—2：地域の多様性を尊重した持続可能なまちづくりに取り組む【区民サービス】

これまでの地域での取組の成果や現状

○コミュニティ形成に寄与する地域の伝統文化は、高齢化により伝統を残したい希望はあるものの継続が困難になりつつある状況が存在する。

○津久井地域を中心に、夏祭りなどの行事や古くからある伝統文化と呼べるものが多数実施されている。

○高齢化が進む中、地区外から移住してきた方たちが伝統的な取組を継続して実施している地区もある。

意見・課題

○個人情報など守られるべきことはあるが、地域の住民同士が顔見知りになることが地域コミュニティの第一歩となる。

○伝統文化や行事の担い手が減少していく中、優先的に守っていくべきものを考えていくため調査することも大切である。

○地域の人が、そのコミュニティにどう向き合うかっていうのが一番大切である。その担い手についても、方法は一つではなく、地域の方が努力をするだけでなく、外から来た人も伝承していけるような人と人が関わりあえる環境づくりが求められる。

○高齢化をマイナスのイメージと捉えるのではなく、できることをしっかりとやっていける地域づくりが重要になってくる。見守りやグリーンスローのモビリティなどボランティアでの活動が大きいですが、ボランティア限界を超えるような部分については、行政からの連携や地域に対する支援が求められる。

○地域の多様性を効果的に発揮してもらうため、自治会単位での補助金などの使途を地域に委ねることで、それぞれの地域が主体性をもって有効な活動することに繋がり、地域活動の継続に寄与すると考えられる。

【B班】発表者：櫛見委員

VI—1：活力あるコミュニティの醸成に取り組む【地域コミュニティ】

VI—2：地域の多様性を尊重した持続可能なまちづくりに取り組む【区民サービス】

これまでの地域での取組の成果や現状

- 各地区でお祭りやイベントは継続して開催されている。一方で、担い手である住民や企業の減少に伴って、意欲はあるが実行委員会のメンバーが固定化しており、次世代に向けての担い手不足などが懸念事項となっている。
- 橋本地区の歴史をテーマにした橋本郷土カルタの第二版が完成した。小学生などに浸透していけば、さらに地元への地域の愛着が深まっていくことが期待される。
- 感染症を契機に減少した自治会の会合など地域の方同士が触れ合う機会が完全回復には至っておらず、住民間でふれあいが減少したままとなっている。行政等の手続きにおいてもDX化が進み、担当者とコミュニケーションをとりながら進めていくということが希薄になっている。

意見・課題

- コミュニティの形成について、強力すぎるコミュニティネットワークとなった場合、他からの参画が難しくなることも懸念される。排他的な組織ではなく、人の輪が広がっていくようなコミュニティとなることが望ましい。
- 新たな担い手の育成には、相手に任せるだけではなく、自分たち自身の考えも変えていきながら、地域に合わせていくことも大切である。
- 地元愛を含めて地元が新たな成長することによって、新たな雇用も生まれて住民も増加につながることもあるので、我々も自分たちの中で考えていくことが必要である。
- 地域の多様性を踏まえた区民サービスとして、多くの住民の方に自身の暮らしている地域の関心を持ってもらうために、現在の掲示板を大きくして情報をポスターにすることやデジタルサイネージの活用が有効である。

【C班】発表者：糸久委員

VI―1：活力あるコミュニティの醸成に取り組む【地域コミュニティ】

VI―2：地域の多様性を尊重した持続可能なまちづくりに取り組む【区民サービス】

これまでの地域での取組の成果や現状

- 藤野の芸術の家では出店している店が入れ替わったりしている。芸術という独自性のもとにコミュニティが形成され、関心のある人の出入りや戻ってくる人もいて、新陳代謝が行われていると言える。
- 緑区の中山間地域には、それぞれ特徴を持ったが地区が多くあるが、PRが足りないと感じる。

意見・課題

- コミュニティ組織の担い手が高齢化、固定化している状況にあり、組織の衰退が懸念される。独自性を持つ組織の中で、関心のある人が新たに加入していく中で新陳代謝が図られるような組織ができ、関係人口が増えて地域が活性化するようにないと良い。

- それぞれの地区の特徴や活動に独自性を持たせた組織ができれば、活発な交流が生まれ、コミュニティが活性化すると考える。
- 緑区と法政大学が協力してSNSで緑区の魅力を発信しているが、各地区のPRも強化していけると良い。
- 都市部と中山間地域で求められる区民サービスの内容は、統一的にはならないので、多様な地域の特性を踏まえて考えていく必要がある。
- リニアの乗客を中山間地域の関係人口になってもらうためには、魅力のPRの他、実際に来てもらう機会の創出や新しい人を受け入れる環境の整備と地域間の連携も必要になってくる。

◎牧瀬会長

一時、緩やかなコミュニティという言葉があったが、コミュニティの活動には関わる人の努力は不可欠であると感じる。また、高齢化を前提とした循環型コミュニティとして、新しいコミュニティの形やその仕組み、仕掛けが重要になってくると考えられる。

3 その他

事務局より、次の2点について報告及び依頼を行った。

- (1) 次回の区民会議は令和8年2月4日(水)午後2時より集団指導室にて開催する。
- (2) 市において区政15年に関するアンケートを実施していることの報告とともに、委員へアンケートへの協力を依頼された。

また、事務局より、「藤野野外環境彫刻作品の魅力向上プロジェクト」のクラウドファンディング型ふるさと納税の制度について情報提供するとともに、周囲への周知を依頼した。

最後に、猿渡委員より、旭小学校6年生(当時)が提案したラスク「berryのとりこ」が、神奈川県「子ども・若者みらい提案実現プロジェクト」で最優秀賞に選出され、商品化を経て京王百貨店サテライト橋本店にて販売中のため、是非食べて周囲にも紹介して欲しいとの情報提供があった。

4 閉会

相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

(順不同・敬称略)

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
まちづくり会議	○田野倉 義信	橋本地区まちづくり会議	出席
	佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議	欠席
	林 和博	城山地区まちづくり会議	出席
	関戸 仁	津久井地区まちづくり会議	出席
	河津 暁	相模湖地区まちづくり会議	欠席
	選任中	藤野地区まちづくり会議	
関係団体	石井 敏夫	相模原市２２地区社会福祉協議会緑区連絡会	出席
	立川 直子	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
	佐藤 稔	相模原市ＰＴＡ連絡協議会	出席
	池田 孝夫	相模原商工会議所	出席
	森下 裕司	津久井地域商工会連絡協議会	欠席
	原 幹朗	公益社団法人相模原市観光協会	出席
	沼尾 将輝	公益社団法人相模原青年会議所	欠席
	畑野 栄久	公益社団法人津久井青年会議所	欠席
	高橋 靖典	一般社団法人藤野エリアマネジメント	出席
	山本 祐子	特定非営利活動法人ふじの里山くらぶ	欠席
	前山 善憲	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	欠席
学識経験者	◎牧瀬 稔	関東学院大学法学部 教授	出席
	糸久 正人	法政大学社会学部 教授	出席
区民	猿渡 達明	公募委員	出席
	高村 るみ	公募委員	出席
	山下友梨子	公募委員	欠席
民間事業者	奥平 麻由	相模湖リゾート株式会社	欠席
	櫛見 大	東日本旅客鉄道株式会社	出席

◎は会長、○は副会長